

横浜市インフルエンザ流行情報 2号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

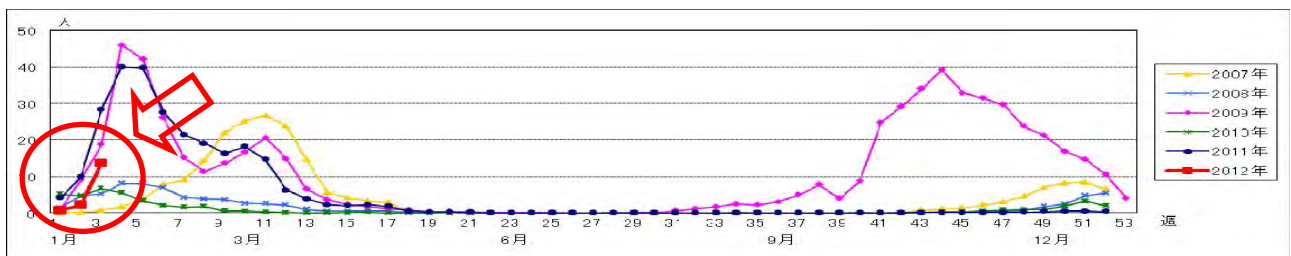
インフルエンザ注意報が発令されました。

【概況】

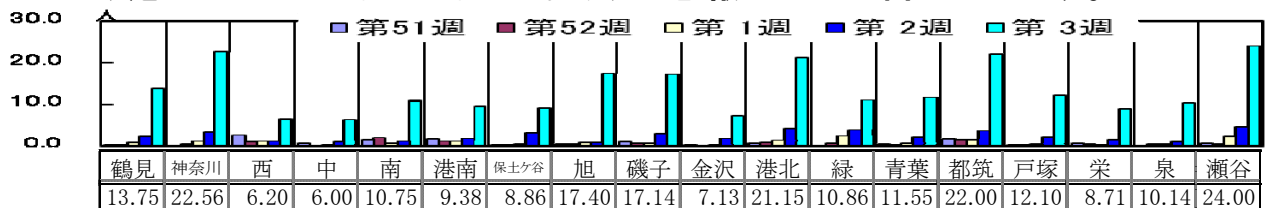
第3週(1月16~22日)に定点*あたり13.71となり、注意報が発令されました。年齢層別では10歳未満の患者が最も多く、学級閉鎖も増加しています。予防接種をしても、うがいや手洗いなどの予防が重要です。市内ウイルスの検出はAH3型(A香港型)が多く、AH3型主流の流行は全国と同様の傾向です。

※定点: 定点とは、受診したインフルエンザ患者数を毎週報告してくれる医療機関のことです。市内には152の定点があり、そこから報告のあった患者数を定点数で割ると、定点あたりの数になります。

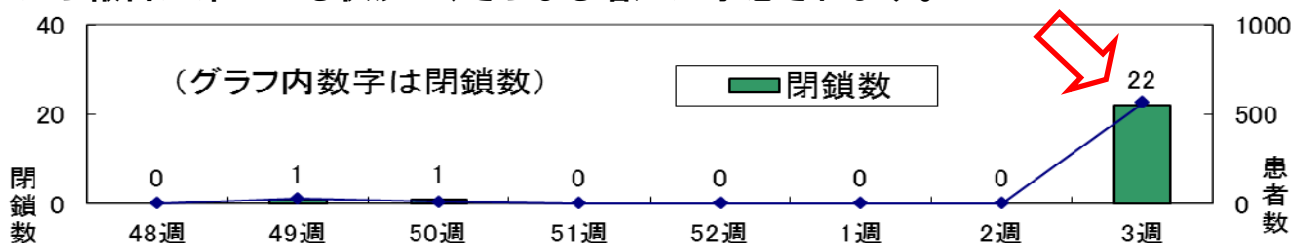
- 1 市内流行状況: 第3週に定点あたり13.71となり、注意報レベル(10.00)を上回ったため、注意報が発令されました。第2週(1月9~15日)の2.23から急激な上昇です。第3週での注意報発令は昨シーズンと同時期です。



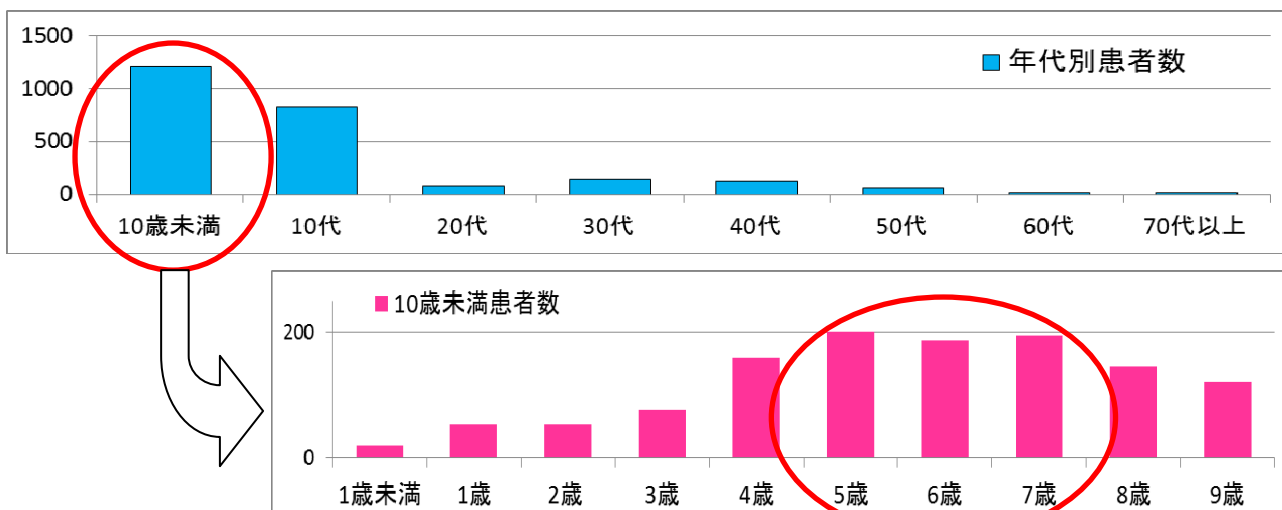
- 2 区別流行状況: 最も多い区は瀬谷区 24.00 で、次に神奈川区 22.56、都筑区 22.00、港北区 21.15 などとなっており、注意報レベルは計 12 区です。



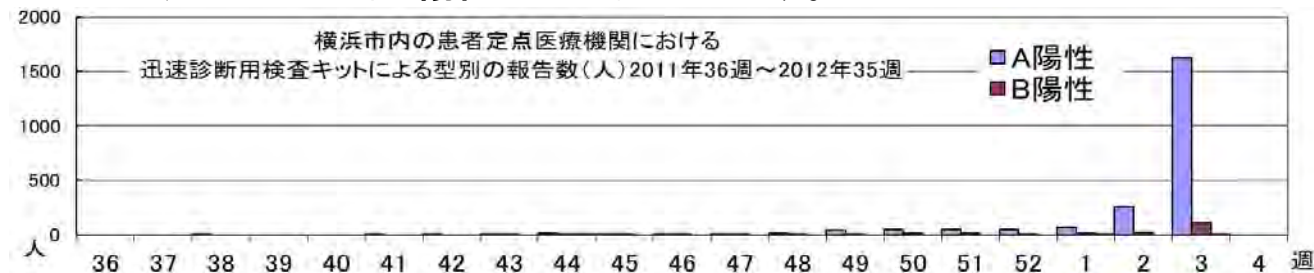
- 3 市内学級閉鎖等状況: 今シーズンは第2週までに2件(いずれも小学校)の報告のみでしたが、第3週に22件と大幅に増加しました。施設種別では多い順に、小学校9件、中学校8件、幼稚園3件、高校2件です。第4週に入っても全区から報告が来ている状況で、さらなる増加が予想されます。



4 年齢層別集計:昨年第 51 週から今年第 3 週までの累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では、5～7 歳で多くなっていました。



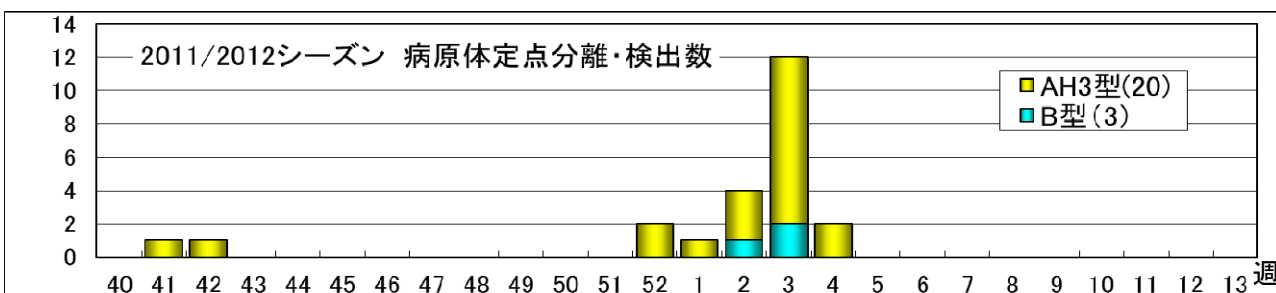
5 迅速キット結果:今シーズンの 2012 年第 3 週現在の累計では、A 型 90.9%、B 型 9.7%、A と B 型ともに陽性 0.3%となっています。



6 病原体検出状況:市内で 23 件検出されましたが、AH3 型 20 件(87.0%)、B 型 3 件(13.0%)です。全国では、1 月 25 日現在で AH3 型 90.4%、B 型 9.1%、AH1pdm09 型 0.5%となっており¹⁾、5 年ぶりに AH3 型主流の流行となっています。国立感染症研究所によると、AH3 型の抗体保有率は特に 0～4 歳で 30%台と低く²⁾、注意が必要です。

1)インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/12 シーズン:国立感染症研究所 <http://idsc.nih.go.jp/iasr/influ.html>

2)平成 23 年度インフルエンザ抗体保有状況調査:国立感染症研究所 http://idsc.nih.go.jp/yosoku/Flu/2011Flu/Flu11_3.html



【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

同 検査研究課ウイルス担当

TEL 045 (671) 2463

TEL 045 (754) 9816

TEL 045 (754) 9804